

えるものではないと、こういうふうに答弁をされました。

つまり、逆に言えば、純粋に防衛的なシステムではない、他国に攻撃をする能力を持つということとは周辺国に脅威を与えることに、この小野寺大臣の答弁からいえるんじゃないですか。いかがでしょうか。

○国務大臣（河野太郎君） 小野寺大臣の答弁は、イージス・アショアは防衛的な兵器である、そう申し上げていると思います。

○井上哲士君 ですから、純粋に防衛的なシステムと当時言われました。そうでない攻撃的な能力を持つということは周辺国に脅威を与えるんじゃないかと、そういうことをお聞きしているんです。

○国務大臣（河野太郎君） 繰り返して恐縮でございますが、小野寺大臣の答弁は、イージス・アショアは防衛的なものであるということを述べたわけでございます。

○井上哲士君 繰り返して残念であります。

これは、単なるこれからの話じゃないんですよ。現実にはこれまでもそういう能力につながるような配備がこの間進められてまいりました。既に、射程の長いスタンドオフミサイルの導入や、護衛艦「いずも」にF35Bを搭載する空母化などが進められてきたわけですね。で、敵基地攻撃能力の保有に当たると我々は指摘をしてまいりました。

た。その際に、政府は、それだけでは敵基地攻撃能力にはならない、一連のオペレーションが必要だということふうに答弁してきましたけれども、具体的にはどうということなんでしょうか。

○国務大臣（河野太郎君） いわゆる敵基地攻撃については、その具体的な装備体系を検討しているわけではございませんので正確に列挙することは困難でございますが、一般論として申し上げますと、敵基地攻撃のためには、他国の領域において、移動式ミサイル発射機の位置をリアルタイムに把握するとともに、地下に隠蔽されたミサイル基地の正確な位置を把握し、まず防空用のレーダーや対空ミサイルを攻撃して無力化し、相手国の領空における制空権を一時的に確保した上で、移動式ミサイル発射機や堅固な地下施設となっているミサイル基地を破壊してミサイル発射能力を無力化し、攻撃の効果を把握した上で更なる攻撃を行うといった一連のオペレーションを行うことが必要であると考えております。

○井上哲士君 今答弁をされたその一連のオペレーション、それをやる能力を持つということは、純粋に防衛的なシステムと言えないと思うんですね。今答弁された内容を持つということは攻撃的な脅威を与えるということになるんじゃないですか。答弁について聞いています。

○国務大臣（河野太郎君） こうしたオペレーション

ョンをやるという前提での御質問に、仮定の御質問にお答えすることは差し控えたいと思います。

○井上哲士君 いや、仮定じゃないんですよ。大臣自身が答弁されたわけですね。そして、あらゆる問題をテーブルにのせて議論をすると言われるわけですから、敵基地攻撃能力の議論も先ほど否定されませんでした。その際に、こういうオペレーションと一体になることになると、それはまさに純粋な防衛システムとは言えない、敵に攻撃的な脅威を与えるものになるんじゃないかと、そういうことも含めて議論しなければ、議論できないじゃないですか。

だから、先ほどの答弁について、それはそれに当たるんじゃないかということをお聞きしているもので、ちゃんと答えていただきたい。

○国務大臣（河野太郎君） 与党の方でいろんな御議論が行われるときに、全てのカードをテーブルの上のせて議論をされるというのは当然のことだと思いますが、政府としてそうした仮定の質問にお答えするのは差し控えます。

○井上哲士君 仮定じゃないんですよ。先ほど大臣が言われた答弁は、岩屋前防衛大臣も同じ内容の答弁をされてきました。つまり、敵基地攻撃能力を持つということはそういうことが必要、だというのは、防衛省自身がこの間繰り返し言ってきたことなんですね。それを持つことは相手に攻撃的